

しずおか国際園芸博覧会「パシフィックフローラ 2004」



写真上は三河千鳥、下は淡紫ヤマアジサイ。 写真提供：岩佐 吉純

第13号 あじさい

2005年1月発行

発行 日本アジサイ協会
事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 5-13-11 杉本誉晃 方
日本アジサイ協会事務局

TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707

東京三菱銀行 荏田支店 口座番号 普通 0481343

ホームページ

<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>

日本アジサイ協会

THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION

第13号 2005.01.

あじさい

アジサイを訪ねて(第7回) リップル



リップル (Ripple)

写真・文：矢田部 元照

昭和六十年ごろキョスミサワアジサイを見て感動し、以後今までにないアジサイを目指して交配を繰り返し、ジュンブライド、ピクトリア、ラブユーキッス、未来に続き平成八年に作出する。アジサイ型。複色。覆輪タイプ。酸性度で明紫赤、中性度で鮮紫ピンクになる。秋色アジサイに変化しやすく永く楽しむ事ができる。

Contents

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1. 会長挨拶 | 岩佐 吉純 |
| 2. 特別寄稿 アジサイはユキノシタ科かアジサイ科か | 大場 秀章 |
| 4. 特別寄稿 アジサイの毒性について | 指田 豊 |
| 5. 特別寄稿 『植物集説』について | 磯野 直秀 |
| 6. 心の悩みに勝つ癒しの花 | 増淵 整治 |
| 8. アジサイおちこち | 藤井 清・宮崎 明美 |
| 13. 出所不明種について | 藤井 清 |
| 14. 四国での葉化病 | 藤井 清 |
| 15. 総会報告 | |
| 17. 新刊書紹介 | |
| 18. 事務局だより | 岩佐 吉純 |

ご挨拶

日本アジサイ協会 会長 岩佐吉純

数々のご業績を残された山本武臣会長のご逝去で、その後任として、六月の総会で会長に就任いたしました。皆様全国の会員のご支援を給わり、益々発展させたいと念願致します。会長職は大変な仕事ですから固辞致しましたが、理事会での推挙をいただきお引き受けいたしました。

昭和 6年2月 大阪市生まれ
昭和26年3月 千葉大学園芸学部卒業
4月 千葉大学園芸学部花卉研究室 助手
昭和31年3月 (株)サカタのタネ入社 園芸部に
平成 3年 常務取締役 営業本部長
平成 4年 専務取締役 営業本部長
平成11年 同社顧問
平成13年 退任

その他

平成11年より16年 (社)園芸文化協会 副会長
平成16年6月 日本ダリア会 理事長
平成10年6月 (株)大田花卉 社外取締役
平成13年4月 園芸学会より花卉産業の発展にたいする永年の功績によって園芸功労賞を授与される。

約50年花の仕事一筋に誠に幸福な人生で、新しい植物の導入・日本・世界への新しい植物の開発に従事いたしました。

又、海外にも友人を多く持っておりますので今後利用したいと思っています。例えばフランスの弁護士、Mr ルネ ロワイアンは、長くCIOPOLAの会長を勤めておられ世界の植物品種登録・パテントの専門家、明年に後任のドイツの方を選んである由ですが日本アジサイ協会の登録については全面的に協力をしていただけます。

アジサイは大切な日本の財産です。しかし、そのアジサイを研究する学者も少なく、外国に後れをとっていると言っているでしょう。大場先生に若い学者でアジサイを研究しようとする方はと伺っても、今はおられないとの事。国際的なアジサイ、育種家は多く見られ、当協会の坂本副会長も世界的ブリーダーの一人です。経済的品種の育成には頑張っておられます。一方ヤマアジサイ、エゾアジサイには、野生からの変異の収集が大部分です。江戸末期、日本人は花の器官を知らず、メンデルの法則も知らず、ただ親木から種子をとって、それを播いて変異をもとめました。変化朝顔はその一つと、静岡大学の米田先生のお話です。

百合も、ロバートフォーチュン・シーボルトがヤマユリ、カノコユリを欧州に持参し当時は マルタゴン・マドンナリリーしかなかったのがその見事さにびっくりし多くの球根を輸入し改良されて、今や日本はオランダより改良種を輸入するだけとなってしまいました。アジサイも皆々様と力を併せて日本の財産を護っていきたく念願しております。先ず、品種登録制度を確立し同種異名を無くします。海外に送る苗は登録し出来れば契約書を協会で作成しそれを添付して送る・進呈すると思っております。

山本前会長の収集された資料は散逸しないように、どこかに資料館を設け保存し、それを更に充実したいと考えます。私も及ばずながら更に収集に努力したいと思っています。会員の皆様のご協力を切に望みます。

またアジサイ植物園は作れないものでしょうか、これはお金が必要で英国はナショナルトラストでの収集がみられますが、日本では古い日本伝統文化を支えるものが全くみられず残念です。以上、国際化に向けた取り組みを申し上げてご挨拶いたします。

最後ですが台風が十回も日本を襲いましたが被害はいかがだったでしょうか、被害にあわれた方々には心からお見舞いもうしあげます。

アジサイはユキノシタ科かアジサイ科か

東京大学教授 大場 秀章

一目でアジサイの仲間とわかるアジサイだが、その仲間、アジサイ属の分類には問題点が多い。だから植物学の立場からいうと、問題の多い植物ということになる。植物学のことなど自分には関係がないと思われている方もいるかも知れないが、そうでもないのである。例えば、アジサイは何科の植物と問われたときである。皆様はどのように答えるのだろうか。バラはバラ科のように、簡単には返答できないところにもアジサイをめぐる植物学上の問題が露見しているといえよう。

ここでいう、科とか属は分類体系上の階級をいう言葉で、類似の「種」(species)は「属」に分類され、類似の属は「科」に分類される。同様に科は「目」(「もく」と読む)、目は「綱」(こう)、綱は「門」(もん)、門は「界」に分類される。分類体系は階級とそれぞれの階級に分類される分類群(taxon)から組み立てられているといえよう。

話を簡単にするため、ここでは「科」というのは類似の植物を収納したタンスとしてみよう。このタンスには引き出しがあって、ハンカチや靴下など、似たものをまとめてしまっておくように、「属」という引き出しが、その「科ダンス」にはついている。アジサイの仲間はアジサイ属 *Hydrangea* という引き出しに入っているのはご承知の通りである。

どのタンスに引き出しをしまえばよいか?

問題のひとつはこの引き出しをどの科ダンスにしまったらよいかという点にある。

これまでどの引き出しをどのタンスに入れるかは、外形、つまり「かたちの類似」によっていた。つまり類似の程度を推し量り、収納するタンスを決めていたのである。私たちはモノをまずはかたちによって区別しているのだから、こうした分類のしかたは日常の行いと違和感が少なく、都合がよい。しかしこれには落とし穴もある。他人の空似はそのひとつで、氏素性がまったくちがっていても似た環境で育てば似てくるといわれることがある。植物にもそれはあって、例えば水の中に生えるマツモやフサモ、カナダモなどは、血のつながりは遠いのによく似たかたちをしている。こういう現象を「収斂」というのだが、結構広範囲の植物でみられる。植物はそれだけ環境の影響を受けやすいともいえる。

収斂とは逆の現象を「適応放散」と呼ぶ、兄弟姉妹ほどに近いのに、まったく異なった環境で暮らすうちに、赤の他人ほどにちがうかたちになってしまった場合である。これも水草だが、水の中に生えるバイカモという草がある。これは一見ただけでは、バイカモがキンボウゲやウマノアシガタと兄弟とはにわかには信じられないほど、ちがったかたちをしている。また、グリーンネックレスという園芸植物があるが、それが春先路傍でみすばらしい黄色い花を開くノボロギクや湿った山地に群生するキオンと兄弟だとは誰が信じようか。こうした例も枚挙にいとまがないほどである。

さらに問題を複雑にしてきたのは、かたちの類似が血の近さを反映した真の類似なのか、それとも他人の空似なのかを見極める決定打がなかったことである。つまり、解釈次第で色々な見解が生まれこともあったのである。それにもとづく分類体系も異なったものになるのは必定である。だから、単にかたちの似ている植物を同じ引き出しにしようといっても、ことは簡単ではない。単にかたちが似ていれば、どんな素性のものであっても一緒にしてもかまわないという考え方もあり得るが、姿かたちはちがっても兄弟姉妹は一緒にしておくという考え方が植物学の考え方である。

とくにダーウィンの進化論以降、植物に限らずあらゆる生きものがひとつの共通の祖先から誕生したことが明らかになるにつれ、引き出しのしまい方、つまり分類の方法も前者から後者へと大きく変わっていったのである。後者の立場にたつ分類法を系統分類という。今日の生物の分類は系統分類の立場で体系化されているのである。

最近、個々の生物の系統関係を的確に知るすぐれた方法が開発された。生物の遺伝情報の担い手である DNA 分子を分析した情報を用いて系統樹を構築する方法である。これだと情報がどのようにでも解釈できるということはなく、誰でもがその情報にもとづいて同じルールにより系統樹を書く限り、同じ樹形しかえられない。系統樹の信憑性はぐっと高まってきたといえる。

大分前置きが長くなってしまったが、ここで本題に入ることにしよう。それはアジサイ属を何科に分類したらよいかという問題である。

これまでアジサイ属はユキノシタ科 (Saxifragaceae) に分類されるのが普通であった。この見解が日本で普及していたのは、このような説を採用したいわゆるエングラール (H. G. A. Engler) の分類体系が植物図鑑や植物誌、それに園芸書などを通じて日本で広く採用されてきたためである。

エングラールはベルリンのダーレム植物園・博物館を拠点に世界の植物を研究し、1887年から1915年にかけてプラントル (K. A. E. Prantle) と共著で、『自然的植物の科』(Die natürlichen Pflanzenfamilien) という、4巻合計8701ページ、附録1224ページというぼう大な著作をベルリンで刊行した。これは植物全体(菌類や藻類なども含む)を網羅した世界で最初の詳細な分類体系であった。エングラールは1926年からその改訂版に着手するが、1930年に亡くなったため完成はしなかった。

この分類体系を記述した本はあまりにもぼう大であったため、エングラールはそのダイジェスト版を出版した。これは改訂を重ねてエングラールの没後も出版が続けられた。最初の版を除き、Syllabus der Pflanzenfamilien のタイトルをもっていたため、シラプスと通称された。その最新の12版はメルキオール (H. Melchior) らの手になるもので、2巻からなり、被子植物を扱った第2巻は1964年に出版された。この最新版はエングラールの分類体系としては最新のものになるが、エングラールの分類体系ではずっとアジサイ属はユキノシタ科に分類されたのである。

エングラールのユキノシタ科は雌しべが2つの心皮からなる以外は5数性の花をもち、花弁は合着せず離生するという特徴を共有する。ベンケイソウ科も似たような花をもつが、雌しべは花弁と同数の心皮をもつ点で異なるのである。ユキノシタ科は17の亜科に下位区分される。アジサイ属はバイカウツギ属、ウツギ属、キレンゲシヨウマ属、デクマリア属 (Decumaria) などと共にアジサイ亜科に分類されている。

分類体系といえば日本ではエングラールのものを指したが、イギリスやその影響を受けた国々ではちがっていた。イギリスで普及していたベンサムとフッカー (G. Bentham & J. D. Hooker) の体系ではアジサイ属とその近縁属はアジサイ科 (Hydrangeaceae) に分類されていた。木と草のちがいを重視するハッチンソンの体系ではアジサイ属は当然独立して扱われた。また、エングラールよりも新しい1983年に提唱されたソーン (R. F. Thorne) もアジサイ科を認めていたのである。

書き落としたがアジサイ科 (Hydrangeaceae) を提唱したのはベルギーの政治家でも植物学者でもあったドゥモルチェ (B. C. L. M. Dumortier) で、それは彼が1829年に著わした『植物の科についての解析』(Analyse des familles des plantes) においてである。

アジサイ属をユキノシタ科に入れてしまったエングラールも、それを独立させ別の科としたベンサムとフッカー、ソーン、ここでは詳しくは述べなかったクロンキスト (A. Cronquist) なども、アジサイ属とユキノシタ属は類縁関係の近い植物だと考えていた。だからユキノシタ科かアジサイ科かといっても、そこにある問題は科をどのような区切りにするかのちがいであった。だが、デンマークの植物学者ダルグレン (R. M. T. Dahlgren) は1983年に、ロシアのタクタジャン (A. Takhtajan) は1987年にアジサイ科をユキノシタ科とはまったく異なる系統の植物であるとし、ミズキ科などのグループであるミズキ目 (Cornales) に分類する見解を発表したのである。

このように日本は別として世界ではアジサイ属をアジサイ科とするのが大勢となっていたのである。ダルグレンらの見解は先に述べた DNA を用いた系統解析においても支持されることが明らかになってきた。分子をもちいたアジサイ属の研究については次回に紹介することを約束して、このへんで本稿を終わりとしたい。(東京大学総合研究博物館)

アジサイの毒性について

東京薬科大学名誉教授 指田 豊

普段、我々はアジサイ *Hydrangea macrophylla* forma *macrophylla* (= *H. macrophylla* forma *Otaksa*) が毒とは考えていませんが、ちょっと詳しい有毒植物の本には大抵載っています。しかし、いくつかの本の情報には誤りもありますので、どのような毒作用があつて、どのような注意をすれば良いのかを簡単に記してみます。

アジサイ属植物 *Hydrangea* spp. の若芽、葉、花を食べると吐き気、嘔吐、下痢が起こるのは事実のようで、多くの報告があります (Hardin, J. W. et al., *Human Poisoning from Native and Cultivated Plants* (1974); McGuffin et al., *Botanical Safety Handbook* (1997) など)。フロリダではアジサイのつぼみをサラダに入れて吐き気と胃腸障害を起した例があります (Spoerke et al., *Toxicity of House Plants* (1990))。

また、馬の下痢、腹の筋肉の収縮、四肢のこわばり、牛の下痢、息切れなどの中毒症状が報告されています (Bruce, E. A., *Journ. Of Amer. Vet. Med. Assoc.* 58 313 (1920); Haust, E., *The Poisonous Plants of New South Wales* (1942))。

ただ、不快な中毒症状はあつても、毒性はそれほど強いものではなく、ハツカネズミ 3 匹にアメリカ産の *H. arborescens* の感想粉末を水に懸濁させて体重 35g あたり 100mg を飲ませた実験では死んだものはありませんでした (Der Manderson et al., *J. Toxicol. Environ. Health* 1:939-53 (1976))。

中毒の原因物質に関係するものとして *H. arborescens* に約 1% の青酸配糖体、ヒドランギンを含むという報告があります (Cook and Martin, *Remington's Practice of Pharmacy*, 9th ed. (1948))。多くの本ではこの物質が体内で分解して発生する青酸により中毒を起しているとしていますが、上記の人や動物の中毒の症状は青酸中毒の症状とは一致しません。また、ヒドランギンを分離したという報告は他には無いようで、どの本も同じ文献を引用しています。青酸配糖体の存在自体が疑問です。

それでは中毒を起している成分はなんのでしょうか。最近アジサイの葉の水エキスにこうマラリア作用があることが明らかに成り、その有効成分としてアルカロイドのフェブリフギン、イソフェブリフギンが報告されています (Ishih, A., et al., *Orasitol. Int.* 50(1)33(2001); Ishih, A., et al., *Phytother. Res.* 17(6)650(2003))。中国産の中国繡球 *H. chinensis* にも同じ成分が含まれています (Khalil, AT., et al., *Arch. Pharm. Res.* 26(1)15(2003))。この両アルカロイドはアジサイ属に近縁のジョウザン (常山) *Dichroa feburifuga* に含まれている事で知られている成分です。ジョウザンは熱帯アジアに生育しており、抗マラリア薬として知られていますが、服用すると吐き気を催すと言う副作用があり、これを逆に利用して吐きたくても吐けない症状に催吐剤として使ったりします。このような事から、アジサイの中毒はフェブリフギン、イソフェブリフギンが原因である事が濃厚です。

食べない限り心配はなく、アジサイに触った程度では中毒しませんが、アジサイ類に何回も触れてアレルギー性の接触皮膚炎になった例がいくつか報告されています (Lovell, *Plants and the Skin* (1993); Avenel-Audran, M., et al., *Contact Dermatitis* 43(4)189(2000); Rademaker, M., *Australas Journ. Of Dermatol.* 44(3)220(2003))。茎、葉、花など、アジサイを切ったときの汁が皮膚に付くとヒドランゲノールという成分が皮下に入ってたんぱく質と結合します。人はこれを排除しようとして体の中に防衛体制ができます。これを監査と言います。そこで再びアジサイの汁が付くと、過敏な人では防衛反応が行き過ぎて皮膚炎になります。ウルシ皮膚炎やサクラソウ皮膚炎と同じメカニズムです。このタイプの皮膚炎は汁がついて二日後ぐらいに症状が現れますので、遅延型接触皮膚炎と呼ばれます。

ほとんどの人は心配ありません。皮膚炎になるのはごく一部の過敏な体質の人です。しかし、接触の回数が多いと皮膚炎になりやすいので、花屋さんやナーサリーでアジサイを扱う人は、茎や葉を切ったときの汁を体につけないように注意してください。

指田豊先生は、薬学博士、東京薬科大学教授でしたが、今年春退任されておられます。ご専門は生薬学・薬用植物学・主に植物成分の化学構造の解明とその生理作用のご研究が中心です。

ユリ科、リュウゼツラン科の植物を中心に研究され、アフリカ産のユリ科植物から現在使われている癌の薬の 100 倍以上の強い作用を持つ成分の分離に成功されています。著書には、薬用植物学 (広川書店) や又近著では『植物による食中毒と皮膚のかぶれ』があり、その他多数のお仕事があります。

外国の毒草の本にアジサイの事が、記載されております。それで指田先生にお願いをいたし、記事としてまとめていただきました。超ご多忙の中、この度原稿を頂戴いたすことができ、厚く御礼申し上げる次第です。会員の皆様も、ご参考にされたと存じます。

文責 岩佐 吉純

『植物集説』について

慶応義塾大学名誉教授 磯野 直秀

現東京国立博物館は明治 4 年に設立された文部省博物館に淡を發するが、当時の博物館では田中芳男が主導する動植物学の部門が大きな柱であり、その部門の活動の一つが資料の収集であった。博物館は、一方では近辺での採集および各地への採集行を通じて資料を収集し、他方では江戸時代の博物誌資料を集めて、それを総合した一連の図譜を作成した。

その植物関係資料の集大成を目指したスケッチ集が『植物集説』(登録番号、和 2346) だと考えられ、完成はしなかったが、仮綴の形で今 61 冊が残る。うち 55 冊が植物を科ごとにまとめた本編、6 冊がいわば附録で、物産会や採集行別にまとめられている。各資料は彩色図とわずかな注記だけであるが、所収品数は 61 冊全体で約 3140。大半は明治五年ごろから 10 年代前半に博物館の画家が描いた図だが、江戸時代の資料も多少存在する。アジサイ類は第 20 冊「虎耳草科」に含まれている。

なお、この「植物集説」に関しては、現在まで何一つ調査報告はない。



磯野直秀博士は、昭和 11 年 (1936) 東京生まれ。東京大学理学部生物学科動物学専攻卒、同大学院生物系研究科動物学専攻博士課程終了。理学博士。慶應義塾大学名誉教授。動物発生学を専門としたが、東大三崎臨海実験所の歴史や E. S. モースの足跡を調べたのがきっかけで、博物史の歴史に足を踏み入れる。著論書に「モースその日その日」(有隣堂)「鳥獣虫魚譜」(八坂書房)「舶来鳥獣図誌」(八坂書房、共編)、近著として「日本博物誌年表」(株式会社 平凡社 837P+100P 02・6・24 刊) がある。

(日本博物誌年表より一部加筆)

植物集説の冊 20 虎耳草科 (ユキノシタ科) がまとめられてあり

1. ミナヅキ 明治 5 年 7 月 竹齊写
2. 唐アジサイ
3. 名前ナシ
4. イワアマチャ
5. ベニガク 明治 11 年 6 月 25 日 写
6. アマチャ 明治 7 年 6 月 27 日 写
7. ヤマチャ 明治 8 年 6 月
8. アヂサイ
9. ベニガク 明治 11 年 7 月 30 日 写
10. ガク 明治 7 年 6 月 23 日
11. シチダクワ 明治 11 年 6 月 28 日 写
12. ギンバイソウ
13. バイクワアマチャ
14. バイカウツギ

がみられる由、印刷物にするとは、東博の許可が必要で今回は掲載できませんでしたが、折を見て許可がいただけましたらと考えております。現在先生は超ご多忙の毎日ですが、原稿を頂戴いたしました。私が日本アジサイ協会のお手伝いをしている事を申し上げ、先生がアジサイについてのお気づきの点をご教示いただきました一つです。

文責 岩佐 吉純

心の悩みに勝つ癒しの花

神奈川県 増淵 整治

◇ ガーデニング ◇

近頃の住宅環境の変化には目をみはるものがある。古風な建物は陰を潜め、モダンで近代風な建物が並び、そのマイホームの庭には今風のガーデニングが良く似合い、艶やかに魅惑的なアジサイが人気の座を占めるようになった。

アジサイの人気の輪は日本列島を北上、北海道の函館の公園では色とりどりのアジサイ、ヤマアジサイ・タマアジサイ・ガクウツギなどが大量（一万株？）に植栽されている。これでは他所のアジサイ園と少しも変わる所がない。何故、地元のエゾアジサイの植栽がないのかと疑問を呈してみた。関係者の答えからアジサイの実態の認識不足を感じるのであった。

近年、茨城・千葉県などでも、ほとんどの公園や寺院がアジサイの植栽に活力を見出しており、はるか南方の奄美・沖縄あたりの民家でも庭先に見られるようになった。

◇ 日本生まれのセイヨウアジサイ ◇

西洋アジサイ（ハイドランジヤ）はおしゃれで華やかな美しさが人々の心を捉え人気を博しているが、その全容を計り知る事はできない。ましてや、作出された個々の系譜を一々たどる手段も不明である。

最近、国内での交配技術の高揚から、作出された創作種が半ば主流となっている。これを西洋アジサイと呼ぶのはいささか疑問があり、適当な呼称を考えたいものだと思うのだが、いかなものであろうか。

◇ 心のあじさい（花療法） ◇

近頃、“癒し”と言う言葉がやたら使われているが、いかに多くの人々が“心の病”“ストレス”に悩んでいる証でもあろうか、〈園芸療法〉と言う大層なものに思われるが、自然の恵みの土や植物には、とてつもない安らぎと癒しの効果が秘められている。露地でも鉢ものでも種を蒔き、植物の育成を楽しみ、開花の成果を喜ぶ、そこには疲れた心の痛みも和らぎ、運動機能の障害も緩められて、精神・身体障害・抗加齢の治療・リハビリに効果があると言われて

いる。
正確に言えば、園芸療法というのは、障害者

や高齢者のリハビリの一環として、セラピストがきちんとプログラムを組んで行うもので、外国では公的な資格制度があるが日本では制度そのものが無いと聞いている。

土にまみれ、植物を愉しむだけでストレスが発散されたり、気持ちが休まったりするので、私は堅苦しく考えずに癒しの家庭療法と考えている。自然の恵みは心の緊張をほぐし、血圧さえも下げるようで、まさに百薬の長に例えても虚言ではないと思っている。

◇ 妖精の囁き ◇

その一瞬、私はわれを忘れた。1996年のこと。そろそろ梅雨も明ける頃のある日、私は娘の新居を訪ねるべく飛鳥山（東京王子）の裾野の道をたどっていた。元来、私は精神主義の戦争時代を歩み、少々の難儀には耐えられると考えていたが、忍び寄る年波には勝てず、心身ともに遭遇したアクシデントに崩壊寸前、事故抹殺の誘惑に負けそうな情緒不安に苦悩していた。

飛鳥山公園は徳川八代将軍吉宗によって江戸庶民の憩いの場としてつくられ、桜の名所として知られているが、山の手の突端となる台地で、下町に至る東斜面の崖はアジサイを植えるのに最適の場所であり、近くの王子権限は参拝客で賑わい、根岸の里は別荘地でもあって、その当時にこの辺りからアジサイの植栽が始まったのも頷ける。

戦後の復興期、この地ではまだ珍しかったヤマアジサイが数多く植えられ、花の標識も整備され、当時としては一番の名所となったが、心無い人々に名のある花は盗掘され、案内標識とは裏腹にごくありふれたアジサイが咲くだけで興味をそそる程の事もなかったが、ふと、何気なく「気」に惹かれ、崖の一点に釘付けとなった。そこには、いくばくかのセピア色の鮮烈な、それでいて幼げな小さな花が恥らうようにひっそりと微笑んでいた。心に染みる色合い、しなやかな花姿、名状しがたい感動にとらわれ、その場に佇んでしばしの時を忘れた。その後ヤマアジサイにはまった私は何度と無くこの「気」を体験している。（この花はシチダンカであった）

ヤマアジサイは、地方によっては沢アジサイと呼ぶ所もあり、山岳の溪流沿いに自生する植物であるが、人間のエゴに寄って勝手に住みかを移され、花の心になって見れば過酷な運命の

変化であるが、それでも逆境に耐え地に馴染んで花を咲かせ人々の心の安らぎの場となっている。そこには自然の慈悲と、包容力の偉大さを感じるのであった。

われにかえった私は、何か心の底から癒され励まされるものを感じ生気を取り戻した。これは決して大袈裟でない私の転生の始まりであった。

◇ アジサイへの道 ◇

現在、自然環境の保護が重要視され、その保全に目覚め、どこでも自生植物の採掘は禁止されている所が多いが、もともと花盗人は昔からご法度。未練はあったが一枝を折る事を憚った。しかし、後日、時期の剪定を知り再度訪れて一穂を頂戴した。これがうまく初根して翌年意外な大きな株に成長した。次に欲張って30本くらの穂にわけて挿し木した。

ヤマアジサイは案外古くから知られていたが、庶民には縁遠くもっぱら貴人の茶花として親しまれたようである。

当時、鎌倉では名月院のアジサイが時流に乗った観光宣伝もあって“鎌倉のあじさい”は知名度を高めた。

私宅周辺でも変異種の半ば野生化したガクアジサイの自生が見られ、古老の話ではずっと昔から浜辺でみられ、浜あじさいと呼んでいたそうだ。

いつごろの事であったろうか近所の庭で八重咲のガクアジサイがあり、珍しくて「誰にもやらないで、内緒にしておこう…」と密かに楽しんでいたものだが、後年“墨田の花火”の商品名で市場に出回った。

このアジサイを私たちは「湘南の花火」と呼んでいる。

◇ あいおい（相生）の花“山アジサイ” ◇

「おはよう！今朝の気分はどう…？」

「今朝はチョット元気ないみたい」

「おじいちゃんファイト、ファイト」

「今日も元気だして、でも無理しないで」

花の妖精たちの囁きが心地よく私の鼓膜をくすぐり、至福のときが蘇る。花と会話すると言うと、大抵の人は戯言と一笑するが、それは感性の違い。植物でも動物でも会話はする。ただ、それは言語にならないだけのこと現実にはリズムやメロディの反応を生かした植物の育成栽培が行われている。

「花の命は短くて……」と才女は名言を残しているが、花の命は短命なものではなく開花と同時に時代への開花に備えて地味な営みが始まっている、それは自然の中のサイクルでもある。

◇ 自然の恵みと、花との絆 ◇

自然って本当に素晴らしい。汲めどもなお尽きぬ慈しみ、どこまでもどこまでも奥深い包容力。過酷な難儀にも耐え忍ぶ生命力、そして活力。そこに展開する植物の強靱な“いのち”がある。

一昨年に続いて昨年と2年連続で、高知県の宮崎明美さんの厚遇を得て、山アジサイの宝庫、峻剣の石鎚山峡から別府峡、更に、“木沢の光”久保光徳さんの好意をも煩わし自生のヤマアジサイの醍醐味を味わい、至福の時を得た。感動の余韻は今なお鮮明に心に焼きついている、この自然の恵みへの思い入れと、花との絆の人情の機微に感応し、私は九死に一生を得た思いである。

その後も病の試練は打ち続いたが私には力強い味方があった。あじさい狂と言われながらも「気」と執念で克服し、花の精たちの応援は心強かった。

“四国アジサイ紀行”の感動と、自然保護の活動家木村マサ子さんに導いて頂いた、知られざる函館山のエゾアジサイの秘境については次の機会に譲るとして、宮崎さん、久保さん、紹介の労を取って頂いた副会長の藤井先生、同行サポートの気遣いを煩わせた鈴木さん、安西さん、市原さん、それに函館の木村さん、アジサイの取り持つ善意の絆に心からの感謝を捧げます。ありがとう。

◇ 庭園開放の波… ◇

今、人間は私を含めて皆病んでいる。一人でも多くの方が自然の心に触れ、心身の労苦を癒し、安らぎを得られる事を望んでいる。その思いから、私は喜びや楽しみをより多くの人たちと共有したいとオープンガーデン（庭園開放）の波及に協賛しささやかながら実践してきた。わが国ではまた私的な庭園開放は少なく、その規模も欧米に及ぶべきでないが、少しづつながら波及していることは喜ばしい限りである。これが大きな輪になって欲しいと念願する次第である。

南九州のヤマアジサイ

副会長 藤井 清

約 6300 年前、九州の南の沖、屋久島の北で大きな海底火山の爆発があった。カルデラ火山と良い、この爆発によって生じた膨大な火山灰は九州一円を覆い、その一部は日本海に出て北陸方面に達したという。この堆積した火山灰層をアカホヤと良い、多い所では層の厚さが数十糎に達するといわれている。

(久保健一郎氏談)

九州では今でも火山活動があり、噴煙による火山灰層は複雑に入り混じって植生にも変化を与えているようである。例えばキリシマツツジのように生育が遅く枝の伸長が短いもの、また桜島大根のように巨大な作物の出現は火山灰のもたらす特殊な現象ではなかろうか。

アジサイ類にも特異性があり、九州南部、特に大隈半島のヤマアジサイは大型でガクアジサイと見間違ふほどであり、現地以外で栽培しても、その形態には変わりがなく、花期が遅いのが特色である。山岳地帯の山アジサイは比較的に大型であるが、他所で栽培すると通常のアジサイに近くなり、大型の形状は失われるようである。

九州地方では通称ボラ土（一般に日向土）が安価に入手できるために鉢物に利用されているようだ。いわば現地の土でありアジサイの生育には問題がないようであるが、これ入手して鹿沼土などを使い栽培すると生育に支障をきたすことがある。特に鉢栽培ではこの現象が大きく出ることがあるので目下土の関連性を研究中である。

先年（平成 2 年ごろ）西都市の押川昇氏と機縁がありアジサイの資料の交換をしたことがある。その際の資料の中に自生地でのアジサイの写真があり、改めてそれらを紹介してみよう。これらの写真の一部は「趣味の山野草」96・9 月（日向路のアジサイ、山本武臣）と重複するところがあるが、元来私の手元にあったものであり問題はないと思う。

その後、押川氏とは疎遠になっているが、改めて九州のアジサイの状態を知るきっかけができたことに感謝したいと思う。

ヤマアジサイに変異が多いというのは南北に長い日本列島の気候風土にあり、島国であるが故の独特の地方性を持ったものができ、現地の人の協力が

なければ解明は難しいものと考えている。

花を追えば足元が留守になりその実態を知ることにはできない。近年大学の先生方によって化学的なメスが入れられ、遺伝子の解明によって改めてアジサイ科の分類がなされようとしているので、その実施も近いものと考えている。

一説にはナンゴクアジサイ、ヒュウガアジサイ、エゾアジサイなどと分類されているが追々結果が出るものと思う。

世界的に見て、アジサイ属は太平洋に面した地方に自生が多いのも特徴の一つであり、日本列島では伊豆諸島のガクアジサイ系、南西諸島の一連のコンテリギ系、本州・九州・四国のヤマアジサイ系、これら三つの系統が交わる接点がどこかにあるものと私は考えている。それが為には是非とも地方の情報が必要である。

今回はからずも九州・四国の情報が入り、改めてその変異の有様を知り、アジサイの奥の深さを痛感している次第である。特に四国地方には深い興味もっている。

以下、写真を紹介してみよう。

宮崎県のアジサイ



① 標高 1000 米を越す草原にもヤマアジサイはあった。



② 草と灌木の合間を競うようにヤマアジサイは開花する。

◇ アジサイおちこち ◇



③ 濃色の半てまり花。栽培すると形の良いてまり花になり、青色の発色がすばらしい。



⑦ 水質の関係か、濃い赤色に咲いている。

樹間のヤマアジサイ



④ 両性花の発達した種類。



⑧ 岩の隙間に根を降ろしたヤマアジサイ。岩石の関係か桃色の花である。



⑤ 僅かなこぼれ日の場所でも花つきは良い。



⑨ 滝と競合するようにヤマアジサイの花が壁面を飾る。



⑥ 一株の中でも様々な花形(装飾花)が見られる。

◇ アジサイおちこち ◇



⑩ 他の植物と交わって開花。花をつけていない株もあり、来年に期待できる。



⑪ 急な崖にしがみつくように自生するヤマアジサイ。水質・岩石の関係か、花色が赤い。

いろいろな花形



⑫ 草原に自生していた濃色のでまり花。栽培すると形が良くなり、青色が冴える。



⑬ 粗い鋸歯の装飾花、淡色で扁平なてまり花。



⑭ 純白のてまり花。



⑮ 白色のてまり花だが両性花が青く、後半装飾花も色が出てくる。

◇ アジサイおちこち ◇



⑯ 装飾花の中心の不念花に特徴があり、重弁花に変異するかも？



⑰ 赤花だが両性花に変化が見られる。



⑱ 鋸歯の粗い装飾花、両性花に注目。



⑲ 白花だが後半次第に紅変する。オシベが長く、花梗（柄）も長い。

屋久島

高知県 宮崎 明美



△ ヤクシマコガクウツギ (ヤクシマコンテリギ)



△ ヤクシマアジサイ。葉に粗い鋸歯がある。

コガクウツギとヤクシマアジサイとの区別はつきにくい種類もある。

◇ アジサイおちこち ◇

トカラ諸島



△ トカラアジサイ。装飾花には変異があり、葉にも丸葉、細葉など変化がある。全島この花で埋まる。

高知三品

高知県 森田 郁雄

新会員の森田です。高知県で採取したヤマアジサイを紹介しします。



(1) 南十字 (矮小種)

装飾花は十字の便が二重に重なったもので開花とともに下を向き、両性花はこんもりと盛り上がり、その形に特徴がある。

花つきの枝は上部でしっかり花を支える。花色は淡青だが濃色処理をすると鮮やかな濃青色になる。鉢作りに適する。



(2) 彦星

両性花の発達した種類で、この種の装飾花は剣弁で上を向く。



(3) 織姫

会報 9 号で宮崎明美氏が発表した両性花の発達した種類でその後の栽培の結果、時には装飾花が輪生で子持ち状になる事がわかった。装飾花は下向きに開花する。

(2)・(3) は天の川に由来して名づけた。三種とも小型種では地上に適し、栽培も容易である。将来、展示場で盆風に仕立てられたこれらのアジサイが飾られる日を待っています。

※ 私の採取したヤマアジサイの苗がすでに市販されている事実があり困惑しています。新しいアジサイを発見するには長年の“勘”が必要であって、簡単に見つかるものではありません。また、採取した穂を栽培してその結果を見るまでには年月を要します。

出所不明種について

副会長 藤井 清
会報 12 号、奥多摩の華と題しての秋田理事の報告にお答えします。

このヤマアジサイは「奴奈川姫」といい、1984 年多田滋氏が名づけたものです。

名の由来は、古事記に「八千矛神(大国主神)高志の国(越後)の沼河比売を婚はなし、幸でましし、その沼河比売の家に至りて歌ひましく」云々とあります。

今は奴奈川姫命と書かれ、新潟県西頸城郡青海町の黒姫山に住まい、機織りの神として信仰されています。

この女神の名をとって華麗なアジサイの名としました。(多田氏談)

このヤマアジサイは比較的小型で装飾花の縁が細く赤く彩られ、先端に強い傾向がみられる可憐なアジサイで、1988 年頃故山本武臣氏が、爪斑のアジサイは珍しいと懇望され送ったものです。

この奴奈川姫とともに多田氏から私に送られてきたものに、今「青海」と名付けられて市販されている赤系、貝咲きのヤマアジサイがあり、ともに青海町産です。

次に市販されている、テマリ咲きのアジサイは花吹雪と称されていますが、花吹雪ではありません。会報 3 号で発表した写真と比較してみれば違いが分かります。私は、グレースウッド(西洋アジサイ)の実生から選別した種類が三種あり、市販のものは別の種類です。

この種は完成品ではなく異なる栽培地ではどのように変化をするか、その変異を知るために二、三人の人に送り、その結果をまわっていましたが一つも報告はなく、挙げ句の果てに間違っただけで市販されてしまい困惑すると同時に期待を裏切られた悔しさの念を隠すことが出来ません。

このテマリ型の出現は、レースキャップの花型からホルテンシア(テマリ型)が生じることが不思議な現象であり、グレースウッドの作出過程に問題があるのか、また私の所での自然の交雑によるものか、まだその謎は解けていません。

交配して新しい種類を作り、固定させるには永い年月の研究期間が必要です。

これを機会にして発見者、作者の保護制度のあり方を真剣に討議すべきではないでしょうか。また協会として保存する品種を選び、それらの詳しいデータを記録して後世に残して置く方策を考える時期が到来したと考えます。

花吹雪の作出記録

- 1989 年 グレースウッド種子播種
- 1993 年 装飾花増え始める
- 1995 年 てまり状になる
- 1996 年 神戸市立森林植物園植栽
- 1996 年 神戸新聞掲載、花吹雪命名
- 1999 年 会報 3 号掲載
- 目下改良中

実生品種の固定には数年を要するのが通例で品種登録となると更に年月を要します。苗木を扱う業者の方は販売にあたって品種の確認、作者の承認を得て販売するのが常識ではないかと考えます。

アジサイ研究者の一人として敢えて苦言を呈し、将来的な観点から諸外国の販売方法を取り入れ、わが国原産のアジサイを再認識し、かつまた種の保存に励み、学術的にも未知なる世界が多いアジサイのベールを一枚一枚ときほぐしてその真の姿を捕らえたいものと考えています。



△ アジサイの枝に産みつけられたモリアオガエルの卵

写真：池田 正弘

四国での葉化病

副会長 藤井 清

葉化病の発生はアジサイを栽培するものにとっては重大な問題であり、その実態究明については東大大学院難波先生の研究でファイトプラズマによる作用で起きる現象であることが判明したが、その発生原因、伝染経路などには依然として不明な点が多い。

以前から注目されていた四国の一地点での葉化現象が確認されて宮崎さんより現物の送付があり、早速、総会に披露するために会場に発送したが手違いにより間に合わなかった。早速、東京サマーランド

に電話して杉本氏に転送を依頼して難波先生に届けるつもりであったが、折からの高温のため葉が腐敗落葉して用を成さなかった。

その後、宮崎さんから現地の土壌、腐葉土などを採取してファイトプラズマの根源の解明に寄付したいとの申し入れがあった。

日本アジサイ協会としても難波教授に協力して病原菌解明に努めたいと思う。

a. 中性花のみ被害



b. 両性花に移行



c. 一枝完全に葉化して葉と花の区別がつかない。



撮影：宮崎 明美

第七回日本アジサイ協会総会報告

平成16年6月26日午後1時半より東京都あきるの市にある広大な(株)東京サマーランドファミリーパーク内の「あじさいの里」で行われた。

◇ 報告事項

- 1、平成15年度事業報告
- 2、平成15年度監査報告
- 3、平成15年度会計報告
- 4、平成16年度事業予定案
- 5、平成16年度会計予算案

◇ 審議事項

- 1、平成15年度会計決算承認の件
- 2、平成16年度会計予算承認の件
- 3、会長選任の件
- 4、監査選任の件

以上の事項が司会進行を坂本理事により、議長に荒木副会長が選任され進められた。池田副会長より事業報告、平成15年度決算案、平成16年度予算案が呈示され審議の上承認された。

議題は会長選任、監査選任に移り、理事会より推薦を受けた岩佐吉純理事が空席であった会長に、監査には安西直子監査が再任された。来期総会は事務局一任とされた。

議事終了後、大場秀章東京大学教授によってアジサイの分類についての講演をいただき、そののち会場内のあじさい名所を散策した。



写真最前列右・岩佐会長、その左奥・大場教授。

◇ 新任役員 ◇

副会長 坂本 正次 (群馬県) 理事 増淵 整治 (神奈川県)

平成十五年度決算書

項目	収入	支出	差引
前期より繰越	1,638,986		
会費	1,146,000		
利息	59		
事務費		59,231	
通信費		219,317	
印刷費		625,252	
計	2,785,045	903,800	1,881,245

平成十六年度予算書

項目	収入	支出	差引
前期より繰越	1,881,245		
特別会員会費	300,000		
一般会計会費	882,000		
会議費(総会・理事会・専門部会)		300,000	
事務費		100,000	
通信費		200,000	
印刷費		750,000	
計	3,063,245	1,350,000	1,713,245

なお、総会の行われました東京サマーランドファミリーパーク内のあじさい園について、東京サマーランドより詳しい説明の原稿をいただきました。ここに紹介させていただきます。

東京サマーランドファミリーパーク内の
あじさい園の『アナベル』の植栽経緯について

第七回日本アジサイ協会総会(平成16年6月26日開催)に当園にご来園をいただきありがとうございました。お蔭様で大変ご好評をいただきました。

当日の総会席上アジサイ育成に関する質疑応答の際、会員の方から当園のアナベルの植栽についてお尋ねいただきましたが担当がお答えする前に会員間の話し合いの中で明解なお答えをする機会を逸してしまいましたので、改めて当園のアナベルの植栽経緯についてご説明いたします。

東京サマーランドは、本館ドーム地区をメインに清流秋川沿いにファミリーパーク・東京セサミプレイスなど幼児から熟年まで幅広い年齢層のお客様にご利用いただいております。

ファミリーパーク地区は広大な敷地を容し、山・谷・水に緑豊かな自然と静かな環境を保っております。この地区を迫り来る高齢化と複雑さを増す都会人に潤いと癒しの場として活用したいと逐年整備を進めてきました。

先ず既存の山桜・染井吉野・枝垂れ桜を移植し、若木を「日本花の会」に求め、次に日本ツバキ協会の方にご協力いただいて椿園を開園しました。更に自園の山陰に幻想的な佇いを見せるコアジサイに魅了されアジサイの植栽に向かいました。

こうしてファミリーパークの花木を桜・椿・アジサイに絞り整備を進めることを決定しました。

早速アジサイ研究の第一人者故山本武臣氏(日本アジサイ協会初代会長)に伝てを求めご助言とご指導をいただき、平成4年から本格的に各種アジサイの植栽を進めました。「アナベル」選定に際しては花色、開花時期、品種特性、立地特性等を考慮し決定しました。

植え込み場所については花色「白」を雪に見立て初夏に雪山を想定し、あじさい坂頂点から望める山の斜面一面に植え込みアナベルの白さで雪山を再現しようと現在地となりました。

年々植栽範囲の充実をめざして頂上へ又裾野部分に苗木移植を加えてきました。その後順調に成長を続け現在樹勢も安定し「アナベルの雪山」にふさわしい雄大な景観を呈しております。

その他山アジサイ等貴重な品種につきましては日本アジサイ協会副会長藤井清氏にご助言と苗木の提供をいただいております。その他の品種につきましては園内各所の株を移植したものの他、個別購入を含めあじさい園は植栽構成されております。

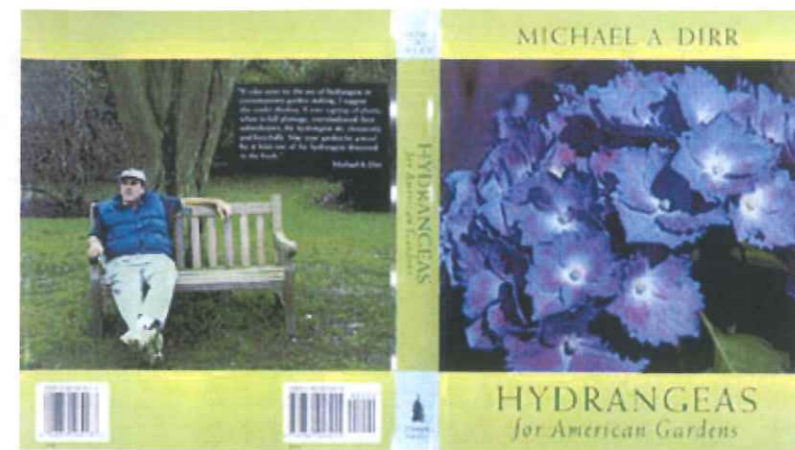
ご質問内容のアナベルの植栽については導入にあたり品種の素性、明瞭さが成長後安定した結果を得る大切な要件となりますので苗木の購入に当たっては信頼する処から一括購入し、植込みは当社従業員が主に植栽してまいりました。また補植用の苗木は園内専用養生畑で増殖したものを植込んでおりますので、当園のアナベルは全てサマーランドで賄っております。

来年も是非サマーランド『あじさい園』にお越しくださいませ。お待ちしております。

株式会社東京サマーランド管理部施設課 小澤 諭



新刊書紹介



CONTENTS

Acknowledgments	1
Introduction	11
Characteristics, Taxonomy and Nomenclature	13
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	15
Hydrangea arborescens (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	17
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	19
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	21
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	23
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	25
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	27
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	29
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	31
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	33
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	35
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	37
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	39
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	41
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	43
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	45
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	47
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	49
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	51
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	53
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	55
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	57
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	59
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	61
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	63
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	65
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	67
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	69
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	71
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	73
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	75
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	77
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	79
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	81
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	83
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	85
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	87
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	89
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	91
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	93
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	95
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	97
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	99
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	101
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	103
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	105
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	107
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	109
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	111
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	113
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	115
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	117
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	119
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	121
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	123
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	125
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	127
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	129
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	131
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	133
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	135
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	137
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	139
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	141
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	143
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	145
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	147
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	149
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	151
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	153
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	155
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	157
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	159
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	161
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	163
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	165
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	167
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	169
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	171
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	173
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	175
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	177
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	179
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	181
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	183
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	185
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	187
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	189
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	191
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	193
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	195
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	197
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	199
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	201
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	203
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	205
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	207
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	209
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	211
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	213
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	215
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	217
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	219
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	221
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	223
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	225
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	227
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	229
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	231
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	233
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	235
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	237
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	239
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	241
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	243
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	245
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	247
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	249
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	251
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	253
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	255
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	257
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	259
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	261
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	263
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	265
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	267
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	269
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	271
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	273
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	275
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	277
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	279
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	281
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	283
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	285
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	287
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	289
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	291
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	293
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	295
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	297
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	299
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	301
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	303
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	305
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	307
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	309
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	311
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	313
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	315
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	317
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	319
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	321
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	323
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	325
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	327
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	329
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	331
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	333
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	335
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	337
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	339
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	341
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	343
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	345
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	347
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	349
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	351
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	353
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	355
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	357
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	359
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	361
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	363
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	365
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	367
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	369
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	371
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	373
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	375
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	377
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	379
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	381
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	383
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	385
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	387
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	389
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	391
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	393
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	395
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	397
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	399
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	401
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	403
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	405
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	407
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	409
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	411
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	413
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	415
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	417
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	419
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	421
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	423
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	425
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	427
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	429
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	431
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	433
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	435
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	437
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	439
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	441
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	443
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	445
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	447
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	449
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	451
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	453
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	455
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	457
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	459
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	461
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	463
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	465
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	467
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	469
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	471
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	473
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	475
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	477
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	479
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	481
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	483
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	485
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	487
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	489
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	491
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	493
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	495
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	497
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	499
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	501
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	503
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	505
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	507
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	509
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	511
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	513
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	515
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	517
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	519
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	521
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	523
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	525
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	527
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	529
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	531
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	533
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	535
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	537
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	539
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	541
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	543
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	545
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	547
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	549
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	551
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	553
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	555
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	557
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	559
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	561
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	563
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	565
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	567
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	569
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	571
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	573
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	575
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	577
Hydrangea serrata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	579
Hydrangea macrophylla (L.) Siebold (Shrub Hydrangea)	581
Hydrangea paniculata (Mill.) B.S.P. (Shrub Hydrangea)	583

事務局だより

◇ 静岡園芸博覧会協会より感謝状

静岡県浜松市で行われていたしずおか国際園芸博覧会「パシフィックフローラ 2004」開催への協力に対して静岡園芸博覧会協会より日本アジサイ協会に感謝状が授与されました。ご協力をいただきました会員の方々には感謝申し上げますと共に、ここに披露いたします。



◇ アジサイ品種名の統一について

岩佐新会長の挨拶にもありますようにこれからアジサイの同名異種、同種異名の混乱を解消していく必要があります。今年度の総会に講演をいただきました大場先生もこの事については大変危惧をしておられます。会長も腹案をお持ちのようです。今、行わなければ品種名の混乱は益々ひどくなり回復不可能となってしまいます。近々に会員の皆様へ案をお示しし、協力をお願いしたいと考えております。

◇ イベント 情報を

日本アジサイ協会のホームページが6月の末に大手の検索サイトに登録されました。それまで2年間で約2,000件であったアクセスが、6月末の5日間だけで6,000件ありました。このことから察しますと17年の5、6月には数万件のアクセスが予想されます。関心が最も持たれているのはアジサイ名所とアジサイ情報です。5月発行予定の会報、4月15日よりホームページに掲載します。4月10日必着で、郵送またはFAXで事務局か池田(0467-25-2428、eメール ike55@luck.ocn.ne.jp) までアジサイ関連のイベント情報を連絡してください。

◇ お詫びとお願い

会報の発行がいつも遅くなって申し訳ありません。会報13号は大場、指田、磯野各先生より特別寄稿を頂戴し大変充実した内容となりました。ご寄稿下さいました先生方には感謝申し上げます。また次の会報14号の原稿を募集しています。あじさいに関する事でしたら何でも結構ですので事務局か、池田正弘までお寄せ下さい。〆切は3月末日です。ことに、あじさいおちこち(遠ち方、近ち方)は短文で結構です。できましたら写真を一、二枚そえて近所で見つけたアジサイ、出かけたアジサイ名所など自分で見たアジサイの感想等を書いて送って下さい。

訂正

アジサイ協会会報 No.11 p7(199)~p9(201) 日本の野生植物 大場秀章 樹木大図説 上原敬二の著書からアジサイの項目を抜き出して学名の変化を掲載いたしました。が熊本県益城郡益城町の白石哲士会員から間違いではないかとの、ご指摘がありましたので下記に正誤表を作りましたので各自、訂正をお願いいたします。

正	誤
p7(199)	
Hydrangea あじさい属	
ツルアジサイ petiolaris	petiolasris
ラセイタタマアジサイ Var. idzuensis	var. iduensis
リュウキュウコンテリギ liukuensis	Liukuensis
トカラアイサイ kawagoeana	kawagooana
p8(200)	
えぞあじさい H. yesoensis	H. yesoenisis
べにがくあじさい H. japonica	f. kaponika
あまちゃ var. Thunbergii 原書では左記ですが 現在では thunbergii とするのが正しい	
var. oamacha	var. Oumaacha
あまぎあまちゃ Var. amagiana	Var. Omagiana
p9(120)	
こがくうつぎ H. luleo-venosa	H. luteo-renosa
やはすあじさい H. sikokiana	H. sikokiana